

第二は、「安全で安心できる教育施設」であること。

幼児教育施設、小中学校の教育施設は「安全で安心できる施設」であることが何にもまして必要であること。

学校舎内、あるいは通学途中において児童生徒が被害者となる痛ましい事件等が頻発する社会風潮の中で、子どもを守るためには教育施設はどのような形態がいいのかを考慮すると、その求められる施設のあり方が考え出されることとなる。

一方、風水害、地震等の非常災害時において、子どもの安全を守るとともに、学校施設は被災住民の応急避難等の場所としての役割も果たすことも必要となることから「安全で安心できる教育施設」であることが、これからの教育環境の整備には重要であるとの結論に至った。

第三は、社会に出て「たくましく生きる力を持つ人間」を育てること。

子どもを教育するにあたり、保護者や地域が求める内容は様々である。

教育には、知識を求める知育、人間性をはぐむ徳育そしてスポーツを含めた体育、さらには音楽などの芸術等の習得など、子どもの特性や能力に応じた教育の必要性など多様な内容がある。

しかし、健全な社会を構築するために、これからの社会において求められていることは、社会の中で、たくましく

く生きる力を持つ心豊かな人間を育てることであり、一人ひとりの子ども達が社会的自立を果たすことが出来るようになることが教育の根幹であること。

提言は、「一、骨太の方針」

として、これからの新しい時代における小野町の教育施設の整備について、大きな方向性を取りまとめた。

次に、骨太の基本方針に基づき教育施設が整備されることを想定し、この整備の際に付随する諸課題と、それらの対応及び教育の在り方について多様な角度から細やかな方向性の在り方を「二、教育環境の整備にあたっての指針」として取りまとめた。



小野中学校

## 提言書（抜粋）

### 「二、骨太の方針」

- 一 町内小学校の6校については、出るだけ早い時期に一つの小学校に統合することが望ましい。
- 二 町内の中学校2校については規模的に大きな相違があるが、小学校同様に来るだけ早い時期に統合することが望ましい。  
ただし、校舎老朽化の現状から、小野中学校校舎改築は緊急に取り組むべき課題であり、整備計画を早急に立て、改築を急がれることを強く提言する。
- 三 幼児教育施設については、少子化社会における子育て支援の最重要施設として、その整備を急ぐこと。  
また、就学前教育を重要視し、幼保一元化を進化させた総合施設制度を導入して、安全安心できる施設として統合し、新たに建築整備することが望ましい。  
なお、夏井おおすぎ保育園は施設が充実しており、地域の育児支援の基幹施設として活用することが望ましい。
- 四 上記の施策実現のため、町並びに教育委員会は具体的な実施計画を早急に策定し、保護者や地域住民の合意を得て、実行に移されることを強く提言する。